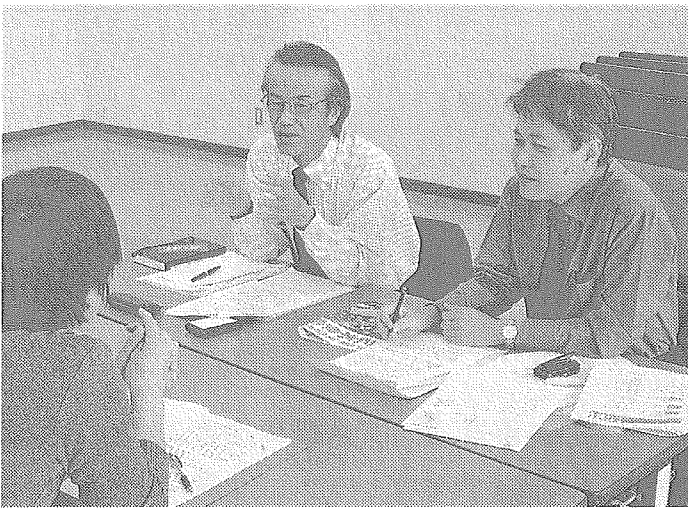


サラリーマンの 中小企業診断士

中小企業を財務や戦略などさまざまな面から診断し、アド
バイスする国家資格・中小企業診断士。経営全般に役立つ知
識が身につくため、転職を志さなくても取得するサラリーマ

実績蓄積へNPO始動

「顧客層が絞り込めて 三木市福井の「道の駅
いない」「地場産業の三みき」会議室。経営する
木金物を、もつとつまく 第三セクターの担当者
集客に使えるはず」 前に二人の中小企業診断



中小企業診断士として経営にアドバイスするN
PO法人「ビジネスアシストこうべ」の松田良
一さん(右)ら。三木市福井、道の駅みき

ンが多い。ところが中小企業庁は今年四月、五年に一度の登
録更新の際に、企業診断など実務経験を重視するため、制度
を改正した。本業を持つ診断士には厳しい内容だが、兵庫県
内では改正を逆手にとり、実績を積みみたい診断士と、診断を
希望する地域の企業をつなぐNPO法人も発足している。

(原田大介)

あった。サラリーマン診
断士でも研修を三回受け
れば済み、更新は簡単に
できた。

5年ごとの登録更新に必要な実務経験

今年3月 まで	9点以上	1日1点=中小企業診断や助言 中小企業支援センター 相談員更新研修 1回3点=能力
4月以降	30点以上	1日1点=中小企業診断や助言 中小企業支援センター 相談員 (能力更新研修は廃止)

った。地域貢献もできる
ので「一石二鳥」と話す。

中小企業診断士で構成
する中小企業診断協会兵
庫支部によると、約二
百人の会員の半数近く
を、会社員や公務員が占
める。学費補助や手当の
支給など、取得を奨励す
る企業も少なくない。

だがビジネスアシスト
こうべ理事長を務める藤
田勉さん(左)は、「今回
の制度改正が、診断士を
擁する企業に浸透してい
ない」と話す。企業にと
って本当に有益な資格な
ら、更新のための実務経
験も業務の一環のはずだ
が、現状は松田さんのよ
うに、有休で個人的に取
り組む例が大半という。

だが今年四月以降は、
五年間で三十点以上とな
り、しかも研修だけでは、
プロっぽく動けるサ
ラリーマン診断士。本業
になった。診断士の質を高
めない分、報酬などを通
めることも、日本経済
の課題である中小企業の
レベルアップに貢献させ
るというのが、中小企
業の狙いだ。

松田さんは、今年八月
に設立されたNPO法人
「ビジネスアシストこう
べ」に所属する。メンバ
ーは十七人で、大半は川
た。「三分の実績にな
るのでは」としながら
「やる気のある人は、本
業の合間を縫ってでも経
験を積む。診断士のある
い分けが進むだろう」と
予測している。

制度改正、実務を重視 地域貢献と一石二鳥

けいこ

最前線

中小企業診断士の登録
を更新するには、実務経
験など一定の要件が求め
られる。表。実務経験に
ついては、企業診断や経
営相談員が一日で二点、
更新研修を一回受ければ
三点などのルールで、
五年間に九点とる必要が